

緑の地球新聞

第168号 2025年4月5日発行：公益財団法人 緑の地球防衛基金

いま名もない砂漠がふえている 私たちは次の世代へ緑の地球を贈ろう

〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館203
☎ 03 (3297) 5505 Fax 03 (3297) 5507
URL: <https://green-earth-japan.net/>
e-mail: defense@green.email.ne.jp
郵便振替口座 00110-9-161182 定価 ¥150

着実に進捗してきた植林事業 —ベトナム・ラオカイ省植林事業の2024年活動報告—

当基金が、2020年4月にベトナム政府と覚書を締結した「ベトナム・ラオカイ省環境保護植林事業」は、3万本の植林と、補植や除草など森林の育成管理が進められ、2025年3月に、事業期間を終了しました。

本件事業に関して、ベトナム政府から2024年の活動報告が送付されましたので紹介します。馬尾松の苗木が順調に生育する一方、カントンアブラギリは成長が遅く、適応に時間がかかっている様子などが記されています。

1. ベトナム・ラオカイ省植林事業地の概況

植林場所は、ラオカイ省シマカイ郡の15ヘクタールの地です。ラオカイ省は、ベトナム社会主義人民共和国（以下、「ベトナム」という。）の最北部に位置する省です。また、植林場所は、ラオカイ省の中心部から約100km離れた中国との国境に接した地域です。（省は日本の都道府県にあたる地方行政区画の単位です。）
植林地のあるベトナム北部は温帯性（亜熱帯）気候に分類されており、



(写真1) ベトナムの地図
ラオカイ省は中国との国境沿いにあり、ベトナムの最北部に位置しています。
首都ハノイ（地図ではラオカイのやや右下に表示。）から約290km離れており、車、鉄道で約4時間かかります。植林現場は、このラオカイの中心地からさらに約100km奥まったところ。

2024年の平均気温は、例年とほぼ同じ約20℃でした。
最も暑い6月の平均気温は32℃に達する一方、最も寒い11〜3月の平均気温は12℃に止まり、0℃まで下がる日もありました。気温が低いと有害な塩霧が発生することが多く、人と家畜の健康、作物の生育に危険をもたらしたとのこと。

2. 苗木の生育状況

①馬尾松（タイワンアカマツ）の苗木
2020年8〜9月に2万7,000本植栽された馬尾松の苗木

は、順調に成長しています。
2025年2月現在、若木の平均樹高は約3mで、5mに達している木もあるとのこと。成長は比較的均一です（写真2、3、4）。
2023年には、枯れた若木等に対応して1,000本の苗木が補植されました。しかし、2024年には樹木が一定の高さに達し、すでに森林になってきていることから、森林整備のみを行い、追加の補植は行われませんでした。



(写真2) 現在の植林地の風景。植林を行う前は低木や雑草が生い茂る地でしたが、環境保護のための立派な植林地に成長してきました。

②カントンアブラギリの種子
カントンアブラギリは、2020年10〜11月に、森林区画の境界線に沿って3,000本分が直播されました。カントンアブラギリは、種子から育てていることに加えて、植場所は密度が高く岩石の割合が高いという土壌特性を有するため、成長が遅れています。

カントニアブラギリの平均樹高は、2025年2月現在、2〜4m、幹の直径は2〜20cmとなっています。



(写真3、4) 2020年に2万7,000本植林した馬尾松。生育は良好で、ベトナム政府の担当者と比較して、大きく成長している様子が分かります。

を促進したいため、枝の剪定はまだ行われておりません。各作業期間には約30〜40人が参加

し、ナイフや鋏を使って手作業により雑草や蔓を刈り取りながら、同時に苗木の根元に鋏入れを行い、若い木が光合成と成長に最適な条件を満たせるようにしました。

さらに、森林警備員や地元住民が時々森を訪れ、森林の木々が家畜や野生動物の被害を受けていないか確認しました。

4. 植樹と手入れにあたっての困難だったこと

植林地が住宅地から離れているため、資材や苗木の運搬、植林の実施、その後の植林地の手入れのための移動が非常に困難だったと、ベトナム側から報告がありました。

また、植林地が急峻な地形で、多くの蔓や低木の成長が非常に早かったことも、植林の世話をする地元の人々に多くの困難をもたらしたと報告されました。

加えて、2022年から続く円相場の大幅下落（円安）のため、当基金からの助成金が大きく目減りし、その結果、2023年夏には、ベト

ナム側から当基金に、事業資金が不足して困っている旨の連絡が入る事態になりました。

本件に関しては、最終的に不足額を追加で助成することとしました。ベトナム側から、当基金の対応に深く感謝する旨の連絡を受けるなど一件落着きましたが、為替レートに関係した問題の発生は、初めての経験でした。

「地球にやさしいカード」2025年度の活動予定

「地球にやさしいカード」からの寄付金を原資とする当基金の助成事業（2025年度は13団体に助成）に関して、各助成団体の2025年度の活動予定を紹介します。

この制度は、「地球にやさしいカード」を利用してショッピングが行われた際に、カード利用額の0.5%に相当する金額が、三井住友カード株式会社から「緑の地球防衛基金」に寄付され、当基金を通じて、国内外で様々な環境保全活動に取り組んでいるNPOなどの各種団体に資金助成されるものです。

ちなみに2024年度の助成金実績は956万円余でした。

（熱帯林を守り育てるカード） NPO法人 熱帯森林保護団体

2024年8月22日の不法侵入者

こうした様々な困難はありますが、これまでの5年間、植林事業は概ね順調に推移してきました。

これは、ベトナム側の官民挙げての真摯な協力と、当基金の会員の皆様、及び貴重なご寄付をお寄せくださった多くの皆様のご協力の賜物であります。

本稿をお借りして、皆様に厚く御礼申し上げます。

助成団体の

による火の不始末から10月の雨期までの大火災により、支援対象地域に甚大な被害が生じました。

「消防団事業」を実施しているエリア63万5,000haの27%（16万8,579ha）が焼失しました。未だ貨幣制度が導入されていないこの地域は、全て森の恵みで営んでいるため、復興するにはかなりの時間を要します。カヤポ族ノメベンコクレ村は20軒全て燃え、インディオ消防士100名のうち1名が犠牲になり、大多数の消防士が負傷しました。世界的な異常気象はこのアマゾンにも影響していることを憂慮し、同時にこの事業の重要性も痛感しました。

（尾瀬の自然を守るカード） NPO法人 尾瀬自然保護ネットワーク

今年度は、尾瀬ヶ原の環境DNA

3. 除草などの森林整備状況

2024年には、2回の森林整備作業が行われました。

3月の最初の作業期間には、木の根元の除草と鋏入れ、及び補植が行われました。

9月の2回目の作業期間には、植栽した低木に絡む雑草や蔓の除去が行われました。植林地は急峻な地形であり、苗木の樹冠を保護して成長

はじめ侵入外来植物、野鳥などの調査とともに、バス添乗解説も予定。保護活動の後継者研修「尾瀬インタープリター養成講座」も実施します。

尾瀬は特別天然記念物であり次世代に残すべき自然資産として、法的にも保護規定のある自然公園です。健全な自然があつての観光であり、保護が優先なのは自明の理です。しかし尾瀬では外国人を含む観光客誘致策が一人歩きをして、保護に資することは会議の設置すら行われていないのが実状です。

(立山連峰の自然を守るカード) NPO法人立山自然保護ネットワーク

過去20年間にわたって山地帯〜高山帯で外来植物の種子散布源となっている地点を中心にオオバコやススキ、イタドリ類、ゴマナ、セイヨウタンポポなどを除去してきましたが、2025年は亜高山帯より上部での活動に従来以上に注力する予定です。富山県内で開催される各種のイベントで自然保護に関する啓発を行い、活動の裾野が広がるように努めます。室内例会のほか自然観察会を実施し、40年目のブナ活力度調査や18年目となる呉羽丘陵でのモニタリングサイト1000里地調査も継続します。

(白保のサンゴを守るカード) NPO法人 夏花

沖縄県石垣島の東海岸に位置する

白保の海には、北半球最大規模のアオサンゴ群集があり、国立の海中公園に指定されています。

2025年度は引き続き、沖縄県特有の環境問題である農地からの赤土流出防止対策としてのグリーンベルト植栽の実施や、ロガーと呼ばれる水温計を設置し、年4回の赤土堆積量調査、年間の海水温変化のデータ化をはじめ、諸活動を実施します。環境教育等については、サンゴ礁保全に関わってきた大学等と協働して、新しい環境プログラムの開発に取り組み予定です。

(ヒマラヤの自然を守るカード) 認定NPO法人 ヒマラヤ保全協会

ヒマラヤ保全協会は、ネパールなどの山岳農村部で植林・果樹栽培の агроフォレストリーを通じた環境保全活動を行っています。

昨年50周年を迎えた同会は、ポカラ湖畔の駒ヶ根公園やトレッキング道へのサクラ苗の景観植栽を継続し、「EHCさくら記念公園」の開設を予定しています。ネパール西部ダウラギリ県での遠隔農山村では、植林活動と農山村での果樹栽培(キウイ、レモン、ブルーベリーなど)を継続します。さらにチーズ工房の再生支援、女性たちによる紙漉き工房、機織り工房の支援など、収入向上につながる自活自営支援で地域エンパワメントを推し進めます。

(ウミガメを守るカード) NPO法人 サンクチュアリーエヌピーオー

総延長115キロの遠州灘海岸は、絶滅危惧種で国際保護動物であるアカウミガメの繁殖地です。サンクチュアリーエヌピーオーは、1986年に産卵地を発見して以来38年間保護調査活動を続けています。

保護活動は一步一歩進んでいます。が、次々に新たに問題が出てきます。直近の課題は、県が海岸協に計画中のドーム型大型球技場の建設です。夜間の照明光によって子ガメは陸に誘導され海に向かえません。引き続き、繁殖環境を守るため、建設計画の見直しを働き掛けていきます。

(トンボの保護区を守るカード) NPO法人 桶ヶ谷沼を考える会

日本一のトンボ生息地「桶ヶ谷沼」の環境を守る、特に絶滅危惧種ベッコウトンボの種の保全に力を注いでいます。長い年月の活動にもかかわらず、2021年度の67頭から、種の保全の危機状態が続いています。このため許可を得、採卵・ヤゴの生育ゾーンを設定し、網掛け・餌やりなどの活動を続けていますが、昨年の調査記録237頭から、昨年は191頭に逆戻りしました。

2025年度はベッコウトンボの保全保護活動を継続し、沼本体からの自然出現を期して、沼の湿地復元

計画を更に実施します。

(トンボの保護区を守るカード) 川原井自然学校

休耕田を田んぼに戻して、生き物を増やす活動を始めて20年になります。田んぼと周りの水路、湿地では、たくさんの種類のトンボと水生生物が暮らしています。

2月に千葉県主催の生物多様性セミナーの講師をしました。20年のノウハウを広げていきます。上総自然学校から、川原井自然学校に変わりましたが、2025年度も田植えなどの田んぼ体験、生き物観察会を引き続き行っています。

(ゾウを守るカード) 認定NPO法人 トラ・ゾウ保護基金

絶滅のおそれが高まるアフリカのマルミミゾウとサバンナゾウにとつて、未だオープンに象牙を販売している日本の象牙市場は脅威です。

2026年に予定される国内法の改正は、市場閉鎖のチャンス。そこで、広く請願署名を募り、2025年5月に国会へ請願書を提出する活動を行います。

2025年10月には、ワシントン条約締約国会議COP20に参加し、関係者に働きかけを行います。

(地球温暖化を抑えるカード) 真庭遺産研究会

岡山県北部中国山地の麓に広がる山村地帯は、全国最大のオオサンショウウオの生息地です。しかし、生息地の環境は大きく変化し、繁殖域の縮小や、個体数の減少が進行しています。加えて、近年、チュウゴクオオサンショウウオの移入や侵入の可能性も高まっています。

2025年度の活動としては、下和川水系および倉見川の渓流域において、生息地となる清流環境の保全と再生とともに、外来種の移入や侵入が起これないよう対策に取り組めます。

(地球温暖化を抑えるカード)

一般団法人 熱帯林行動ネットワーク(JATAN)

熱帯林行動ネットワークでは、2020年以降、インドネシアのボルネオ島東部でオランウータン保護団体であるCOPと連携して、植樹活動を実施してきました。

2025年度は、これまでに植樹した地域においてモニタリングや管理・修復作業を行います。また、オランウータン保護活動の一環として、保護林の境界周辺における野生のオランウータンと住民との衝突を防ぐための緩衝地域を設けることを目的とした2,000本の植樹を実施する予定です。

(地球温暖化を抑えるカード)
NPO法人 NPOクワガタ探検隊

NPOクワガタ探検隊は、自然とのふれあい原体験を通して『未来の森の守り人』を育成する活動を、31年間持続してきました。

2024年度は、①新創作絵本『なんでやねん！昆虫の王様』の「読み聞かせ活動」、②箕面国定公園における「緑の植樹活動」、③地域産カブト虫を増殖して元の里山に帰す「里山塾活動」などを行政・市民企業、財団、基金などと『協働』して、多大な成果を残せました。

2025年度も、こうした活動を継続して実施し、さらに里山再生に尽力します。

(地球温暖化を抑えるカード)

NPO法人 Hope & Faith International

ネパール国ヌワコット郡ビドール市で増える放置畑を有効活用し、アグロフォレストリーの景観を維持発展させる環境保全プロジェクトを行います。将来的には、過疎化地域での環境保全モデルの一つになることを目標としています。

今年、初年度ということもあり、村民にアグロフォレストリーの景観維持・発展への理解を深める勉強会を行い、協力を求めます。また、放置畑の自生樹木・作物の植栽方法などについて学びます。そして、試験的にウコン、ユカン、コーヒーを1農地それぞれ100本植樹する予定です。

**たくさんの使用済み切手など
ありがとうございました**

使用済み切手等売上表
(12月16日～3月15日)

未使用テレホンカード	0円
未使用/使用済み切手	170,215円
未使用/書き損じハガキ	34,730円
外国コイン&紙幣	0円
合計	204,945円

使用済み切手等協力者

(12月16日～3月15日敬称略)

芦田廣、磯部義孝、奥村美奈、影山正美、岸裕子、久原高志、孝田荘屋、末松大輔、田ノ井知子、永島勲、中野寿人、宮本久子、村松幸志、安田憲俊、矢吹賢一、匿名

同法人・団体協力者

(12月16日～3月15日敬称略)

安藤産業(株)、(株)伊予銀行、岩田地崎建設(株)東京支店、(株)オピタス埼玉支店、鹿島建設(株)、川南ライオンズクラブ、喜界町埋蔵文化財センター、共和食品(株)、(社)釧路市社会福祉協議会阿寒支所、(株)ケーライン、さくら工業所、三光ライオンズクラブ、三洋テクノマリン(株)、JSA中核会岐阜支部、生長の家岩手県教化部白鳩会、生長の家白鳩会東京第二教区連

合会、積水ハウスシヤーマゾンPM中部(株)、大成有楽不動産(株)、タチバナ工業(株)、デロイトトーマツグループ、東亜合成(株)横浜工場、東京少年友の会、東陽商事(株)仙台支店、虎の門病院、ニッパツ・メック(株)、日本製紙キッドパッケージプロダクト(株)、福井県環境保全協同組合、不二建設(株)、ブリヂストン労働組合横浜支部、豊後高田ライオンズクラブ、ホープ歯科クリニック、マルハニチロ(株)、都城金御岳ライオンズクラブ、ミヤ通信工業(株)、(株)ミルックス関東機材センター、(株)むさしのメタル、(株)森組、郵船商事(株)、由布ライオンズクラブ、(株)ロムテック

寄付協力者

(12月16日～3月15日敬称略)

大熊泰江、佐藤将治、ジャパン・カインドネス協会、(株)乗馬クラブクレイン、幅田博樹、東くみ子、三井住友カード(株)、森口修

事務局からのお願い

使用済み切手等を送り下さる皆様、ありがとうございます。当基金では、皆様から送りいただいた「未使用/書き損じハガキ」「未使用/外国コイン&紙幣」の売上金を、最近の活動等に役立てています。皆様からの協力をお待ちしております。